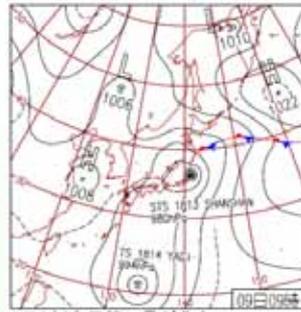
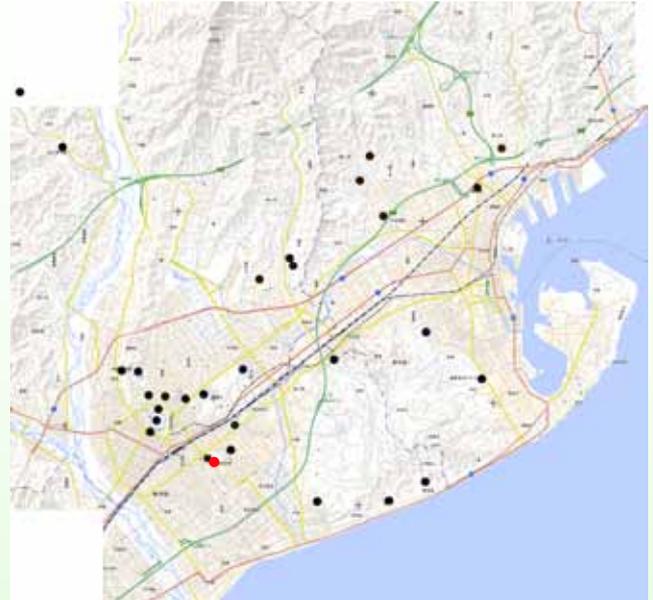




クロマダラソテツジミ



9日(木)台風第13号が北上
台風13号の影響を受けた
8月9日天気図



静岡清水平野でのクロマダラソテツジミ分散確認地点
●は、最初に発生が確認された神龍院。

クロマダラソテツジミが静岡県で2009年に発生したことについては、自然史しずおか第27号 (Dec.2009) に紹介した。その後県内では2011年、2015年、2016年、2017年に小規模な発生がみられたが、今年は県西部から東部まで多くの地域で発生が確認された。

最初の発見は豊田中学校の久村惇くんと葵小学校の久村晋くんの兄弟で、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」に標本を持参した。採集は8月28日、場所は駿河区曲金・ツインメッセ静岡であったが当地にソテツが見つからないため付近のソテツのある場所を探るように要請した所、30日に葵区追手町・静岡市役所前と葵区城内町・葵小学校で見つけたとの連絡が入った。8月31日に駿河区八幡の神龍院で発生が確認され、31日、9月1日には多くの成虫・終齢幼虫が観察された。

この蝶は、成長が早く、14日～15日で卵から成虫まで達するが、今回の9月の野外観察で、♂では14～16日ほど、♀では16～18日くらいかかっている。そのため♀の産卵から次の世代の産卵まではだいたい20日前後と推測される。そのため神龍院からの分散状況から見て、最初の♀は8月9日～10日ごろに飛来したと思われ、神龍院では8月初めにソテツの葉を剪定していることから10日前後に新芽が伸び始め、ちょうど飛来した♀が産卵したようである。

当時の天気図を調べると、伊豆七島沿いに北上した台風13号が、8日ごろから伊豆半島に接近し、9日には銚子沖から宮城沖へ抜け、静岡県の海岸沿いでは9日～10日の日中に強い南西風が吹き続けたため、この風に乗って静岡県の海岸地帯に飛来した可能性が大きい。同時に、今夏は猛暑の影響が、8月から10月にかけて各地で多くのソテツが新芽を出した。それらの要因が重なり、県下各地での発生につながったと思われる。

今回の県下での発生にはいくつかの拠点がみられ、西部では磐田市掛塚付近、中部では大井川港緑地公園か吉田町能満寺、静岡市八幡神龍院、東部では三島市内、などが現在の調査結果から考えられ、いずれも8月10日前後の飛来であると推定される。

以後の静岡清水平野での分散を追跡すると、神龍院からの分散は8月28日ごろから9月10日ごろ、また分散先で育った子孫は9月18日ごろから9月末ごろに分散している。以後は世代が重なりさらに分布を広げたようだ。このことから、この蝶は南西風により長距離を移動し、到達地では近距離移動で分布を広げていく様子が見て取れる。

そのほか、発生地および新たな飛来地での観察から推測すれば、♂の多くは発生地にとどまり、後から羽化する♀を待ち交尾する。交尾した♀は、発生地にソテツの新芽があればそこで産卵し、無ければ速やかに分散する様子が見られる。そして分散した♀はまずソテツを見つけて接近し、続いて新芽を探して産卵、新芽が無ければ次のソテツを探して飛び去る、というようなパターンで分布を広げていくようだ。

発生の終息は、幼虫が寒さで死滅するより前に、ソテツの新芽が無くなることにより発生を続けられなくなり、11月上旬から減少し、11月下旬には見られなくなった。